

序

私はアメリカの連邦準備制度理事会の中枢において中央銀行とそれに密接に関連する民間金融や公的金融の分野に関係する、長い職業人生を送ってきました。そのキャリアのなかで経験した重要な出来事を家族（特に子供や孫の世代）と少数の友人たちに知っておいてもらおう、というのが出発点となり、本書はその努力が拡大し発展した結果できたものです。そのキャリアの中で多くの書き物がありさまざまなトピックスに関する長いエッセイがあり、そのなかにはアーサー・バーンズやポール・ボルカーが議長職にあつた時期に焦点を当てた連邦準備制度（FED）に関する長い記述も含まれていました。私は当時の仕事上のポジションのために、通貨供給量（マネー・サプライ）論争と今では「偉大なインフレとの戦い」と呼ばれているものが遂行されている最中に、その歴史に積極的に関与していました。したがって、その箇所を執筆するに当たって、その時期の出来事について私見を述べるべきであると故ミルトン・フリードマンがかなり早い時期に、またかなり時間が経ってからベンジャミン・フリードマンも勧めてくれました。その意味で本書はその勧奨に対するむしろ遅きに失した対応ともいえます。

そのような趣旨の原稿は必ずしも完成していませんでしたが、草稿を読んでくれた何人かのエコノ

ミストたち（国内外の元同僚を含む）から有益な激励のコメントをいただきまとめて加筆しました。そうして多くの人々が出版することを念頭において改訂すべきだとアドバイスしてくれたのです。こうして、私の単なるエッセイはやがて本の長さに対応する書き物に変わっていききました。その半分以上が大幅に拡充されたFEDに関する部分で占められ、ウィリアム・マーティンが議長だった時期からアラン・グリーンズパンの在任期間までの半世紀をカバーしていました。そのFEDに関する部分が本書の核となっています。

このようなプロセスにとって重要だったのは、FEDに関する修正草稿を読んでもくれたロバート・ソローからの非常に貴重なコメントや洞察でした。彼が一定の評価をしてくれたことが、私にとって非常に大きな安心感になりました。デービッド・リンジー——親友であり、かつては連邦準備制度理事会から高い評価を受けていた元同僚で、グリーンズパンの在任期間の後半では金融政策局の次長になった人です——は、修正した草稿を全部二度も精読してくれました。マサチューセッツ工科大学（MIT）出版局の匿名の審査員三名からも有益なコメントを頂戴しました。そのうちの一つはものすごく長くて、考えさせられることが多く特に有益でした。加えて、出版局の上級編集者であるジョン・コベル氏も、この本の出版に向けて私を駆り立ててくれました。もちろん、事実に関するすべての解釈と残っているかもしれない誤認はすべて私の責任です。

最後に、このプロジェクトは家族向けのエッセイとして始まったので、私としては本書を六人の素晴らしい孫たち（出生順にベン、マイク、リンジー、マシュー、エリック、クリオ）、三人の立派な

子供たち（ピート、エミリー、リッチ）、そして、何よりも、真の芸術家（本書の読者はその意味がわかるでしょう）、であり、そして私たちみんなを結び付ける力である妻のキャシーに捧げたい。

アメリカ連邦準備制度 (Federal Reserve System) *

歴史

一九一三年一月ウイルソン大統領の時代に連邦準備法に基づいて設立されたアメリカの中央銀行である。他国の中央銀行からはかなり遅れて創立されている。イングランド銀行は一六九四年創立、フランス銀行は一八〇〇年、日本銀行は一八八二に創立された。

機構と組織

連邦準備制度の総合統括機関として連邦準備制度理事会 (Federal Reserve Board) があり、一四年の任期をもつ七人の理事によって構成され、その中から議長、副議長が各四年の任期で任命される。これらは全て上院の助言と同意に基づいて大統領により任命される。事業内容は金融政策の策定と実施であり、連邦準備制度全般の活動の最終責任を負う。

F R B は連邦公開市場委員会 (FOMC : Federal Open Market Committee) を定期的に開く。F R B の理事七名とニューヨーク連銀総裁、及び他地区の連銀総裁四名が加わり、F R B 議長のもとで会議が行われ、アメリカのその時々々の金融政策を決定する。Federal Funds (FF) 金利の誘導目標と公定歩合が決定される。

* 編集部による追加。

連邦準備銀行

連邦準備銀行 (Federal Reserve Banks) は市中銀行の監督と規制など、公開市場操作などの連邦準備制度の業務を行う。また連邦準備券 (ドル紙幣) の発行を行う。連邦銀行 (連銀) と呼ばれることもある。以下の一二地区に分割されている。

- 第一地区 ボストン連邦準備銀行
- 第二地区 ニューヨーク連邦準備銀行
- 第三地区 フィラデルフィア連邦準備銀行
- 第四地区 クリーブランド連邦準備銀行
- 第五地区 リッチモンド連邦準備銀行
- 第六地区 アトランタ連邦準備銀行
- 第七地区 シカゴ連邦準備銀行
- 第八地区 セントルイス連邦準備銀行
- 第九地区 ミネアポリス連邦準備銀行
- 第一〇地区 カンザスシティ連邦準備銀行
- 第一一地区 ダラス連邦準備銀行
- 第一二地区 サンフランシスコ連邦準備銀行

株主

ロスチャイルド系、及びロックフェラー系財閥などの国際金融資本が最大の株主である。アメリカよりもヨーロッパ系資本家の比率が高く、民間の機関である。

目次

序	iii
はじめに	1
第一章 金融政策の運営と運営者に関する概観	9
第二章 ビル・マーティン時代	33
第三章 アーサー・バーンズ時代、そしてインフレとの戦い	81
第四章 谷間のビル・ミラー時代	117
第五章 ポール・ボルカーとインフレに対する勝利	133
第六章 グリーンスパン時代とそれ以降	179

第七章	F R Bとそのイメージ	233
第八章	まとめと将来の展望	253
補遺 A	F R B議長とアメリカ合衆国大統領の年表	275
補遺 B	経済的目的と金融政策指標	276
	二〇〇七―二〇〇九年の金融危機とF E D	
	—— (著者あとがき 二〇〇九年一月)	279
注	1	